

総務

世界遺産活用推進事業

〔質問〕市民も含め多くの方に来訪してもらうことが重要と考えるが、市民向けの広報はどのようにしてきたのか。

〔答弁〕チラシやパンフレットの配布、フリーペーパーの雑誌や新聞広告、バス車体へのラッピングなどを実施し、市民にその存在感を知らせ、PRをしてきた。また、出前講座等を開催し、現地に足を運んでもらうような取り組みを行った。今後も、さ

文教福祉

さが桜マラソン大会開催経費

〔質問〕開催時期を早めた効果は。

〔答弁〕気温が低く、途中棄権者や救護搬送が減った。また、運営もしやすかった。

〔質問〕ボランティアがあまり休憩せずに活動している。配慮が必要では。

〔答弁〕運営委員会でも同意見が出た。交代可能な体制づくりを検討していく。

〔質問〕安全対策向上のために参加料を値上げしたとのことだが、安全対策経費が前回より少なくなっているのはなぜか。

〔答弁〕前回大会で雨が降り、警察から指

まざまな手法により周知に努めていきたい。〔質問〕今、見えないことを売りにしているが、今後はやはり見えるようにしていく必要があると思うがどうか。

〔答弁〕いろいろと検討をしたが、保存のためには、地下遺構は現状のまま埋め戻した状態にするという方向性が出されている。そのため、それ以外の方法として、デジタル技術の活用やガイダンス施設での模型の展示など、実物と同じように見える工夫を検討している。

〔質問〕次々に新しい世界遺産が登録され、

常任委員会(決算審査)

示があった。安全対策とエイド^{*}の充実のため、値上げだったが、結果的に減少した。

〔質問〕750万円の剰余金が出ているが、参加費を下げるなどの議論は。

〔答弁〕次回大会は考慮した予算を組んだ。安全対策を行い、さらに剰余金が出る場合は、参加費見直しや負担金調整を議論する。

〔質問〕運用マニュアル作成や、看板設置、警備などは、県外業者に発注しているのか。

〔答弁〕全国のマラソンを扱う県外業者に発注している。レンタル用品も県外業者が発注している。仮設トイレ等は、その業者が県内の業者に依頼している。広報は、市内業者に発注している。

三重津海軍所跡は次第に色あせてくると思うが、新しく登録される世界遺産などとの連携が必要ではないか。

〔答弁〕国内の世界遺産のそれぞれの団体が集う協議会があり、今年度その協議会に参画し、情報交換を行いながら、他の世界遺産との連携について検討していきたい。

〔質問〕三重津海軍所跡について、まだ市民に浸透しておらず、佐賀市に世界遺産があるという誇りを全く感じることができない。もっと大々的にPRをするともに、凌風丸やドライドックなどの実物大の展示

〔質問〕佐賀新聞社、佐賀陸上競技協会、県、佐賀市、神崎市が主催だが、主導は。

〔答弁〕佐賀新聞社が取りまとめである。

〔質問〕負担金を払っており、支出や委託先を精査する権限があると思うがどうか。

〔答弁〕運営委員会とは別に5者会議等を設け、事業内容等の話し合いを行っている。

〔質問〕市の事業は、基本的には市内業者に発注としている。負担金を支払っているのであれば、運営に意見していくべきである。参加費についても、必要性があつての値上げは構わないが、使途について、把握し精査していくべきであると思うが、どうか。

〔答弁〕予算については意見を述べる立場

などを検討しないと市民に浸透しないのではないかと。

〔答弁〕今後の整備計画の中で、来訪者の興味を引く、目玉となるような展示コーナーを整備したいと考えている。また、ガイダンス施設についても、出来るだけ前倒しして整備していきたい。

〔審査結果〕全ての議案について、認定すべきものと決定。第54号議案について附帯決議案を全会一致で可決。

で会議に参加している。参加費の値上げ等についても議論し、十分な確認を行っており、佐賀新聞社に任せているわけではない。大会事務局にも県や市の職員が入り、予算執行もしっかりと確認を行っている。

〔質問〕大会への応募は、インターネットでの先着順だが、平等性があるのか。

〔答弁〕そういった声も挙がっている。大会事務局内では、現在の方法のほうが平等性が保てるという意見もあるが、今後も検討がなされるよう意見を出していきたい。

〔審査結果〕全ての議案について、認定すべきものと決定。第54号議案について附帯決議案を全会一致で可決。

※1 エイド：水分や食べ物を補給できるようコースの途中に設けた施設。

経済産業

森林セラピスト育成事業

〔質問〕 事業推進のためにも、森林セラピストや森林浴ガイドの計画的な育成が必要であると思うが、その育成はこれまでどのような形で実施してきたのか。

〔答弁〕 育成に関しては、平成25年度に一度森林浴ガイドの育成を行ったのみである。今年度、森林浴ガイドの育成講座を設けているが、現在の申し込みは5人とまだまだ少ない。今後、森林浴ガイドの育成講座を継続して実施し、あわせてスキルアップにも取り組んでいきたい。

建設環境

清掃工場二酸化炭素分離回収設備整備事業

〔質問〕 回収した二酸化炭素のうち、企業に供給しない分は大気中に放出しているとの説明だが、わざわざ回収して、放出することは、回収に係る経費の無駄ではないか。

〔答弁〕 二酸化炭素分離回収設備は、間欠運転をすれば機械への負担が大きいため、最低レベルでの連続運転を行っている。また、補助金をいただいている関係で、環境

〔質問〕 森林セラピストや森林浴体験に対する市民の認知度が低いと思う。公民館や企業研修での活用など、幅広い発想が必要と考えるが、どうか。

〔答弁〕 公民館を活用するなどの方法は非常に有効な手段であると思う。まずは実際に体験してもらい、森林浴体感ツアーの参加者をふやすことが必要であると考えている。

〔意見〕 佐賀市が自分たちの持てる資源を生かし、どのように観光と連携していくのかを考え、観光面からも事業の位置付けを高めていく必要がある。

常任委員会（決算審査）

省への報告書において、毎日のデータを取る必要があることも、連続運転をしている理由のひとつである。

〔質問〕 供給しない余った二酸化炭素は、液化している企業などに無償で提供することなどはできないか。

〔答弁〕 仮に二酸化炭素を液化のために提供する場合は、企業等が液化施設を整備することになるが、3、4年後に清掃工場北側への二酸化炭素の供給量がふえたときに、液化施設への供給ができなくなる。

〔質問〕 二酸化炭素の販売収入は想定より

えびすなどを活用した商店街活性化事業

〔質問〕 恵比須ステーションの運営については、観光協会に委託するのではなく、実施主体である恵比須DEまちづくりネットワークに委託すべきではないか。

〔答弁〕 本来は恵比須DEまちづくりネットワークに委託するのが望ましいと思うが、恵比須ステーション自体の安定的な管理・運営と、ほかの観光施策との連携を図るために観光協会に委託しており、恵比須DEまちづくりネットワークは、恵比須巡りツアーや恵比須八十八ヶ所巡りなど、えびす

も低いが、一方で法定点検費等の維持管理経費も抑制できており、収支ともに当初の想定から離れた数字になっている。収支計画を見直すべきではないか。

〔答弁〕 維持管理経費については、当初計画より抑制することができている見通しであり、二酸化炭素の販売についても、企業の実況が分かってきたため、今後、収支計画の全体的な見直しを図りたい。

〔質問〕 世界で初めてや日本で初めての取り組みだと言っても、市民は結果しか見ていない。議会としても市民への説明ができ

を普及させ、えびすを核としたまちづくりの活動に専念されている。今後、えびすにかかわる活動がよりよくなされるよう意識しながら取り組んでいきたい。

〔質問〕 イベントの開催は旧市内だけでなく、1市6町1村で幅広く開催してはどうか。

〔答弁〕 全市的な取り組みとすることで、より長く佐賀市に滞在してもらうという結果につながる。佐賀市だけにとどまらず、広域的なえびすを活用したまちづくり、観光誘客などに取り組んでいきたい。

〔審査結果〕 全ての議案について、認定すべきものと決定。第54号議案について附帯決議案を全会一致で可決。

ないので、途中で大きな変更があるときなどは、議会への報告はきちんと行うべきである。

〔答弁〕 状況がいろいろと変わる中で、議会にきちんと報告をすべきであった。今後は、状況の変化があったときや、節目、節目に議会に報告をしながら、事業を進めていきたい。

〔審査結果〕 全ての議案について、認定すべきものと決定。第54号議案について附帯決議案を全会一致で可決。



清掃工場